

2012 年度 第 1 回スノーモビル部会 議事録

【ダイジェスト版】

開催日 : 2012 年 7 月 19 日 (木) 13 時 00 分～17 時 00 分
開催場所 : (一財)日本モーターサイクルスポーツ協会・会議室

1 前回議事録の確認について

2011 年 6 月 30 日開催の「平成 21 年度第 1 回スノーモビル部会」議事録が提出され、承認された。

※ヘルメットタッチスタートについて

昨シーズンに実施したヘルメットタッチのスタート方式が選手から評価が低く、今シーズンのスタート方式は、ヘルメットタッチを廃止し以前のスタート方式に戻したが、各大会ともスタート方式に対する不具合は報告されておらず、スムーズな移行がなされ、運営については問題なかったと認識している。選手側からも好評であった。

2 2012 年度全日本選手権シリーズ開催状況について

2012 年度全日本スノーモビル選手権は全 6 戦で無事開催された。前年対比で A 級は 106% (SC: 113%、S1: 108%、S2: 119%) と増加したが、B 級は 87% (S1: 80%、S2: 95%、S3: 85%) と減少。B 級の減少が全体に響き、トータルで 85% と減少となった。※入門クラスの減少対策が必要である。

決定事項

- ・ 車体に装着するゼッケンのフォント (書体) を規則書に忠実に記載するよう選手に啓蒙する
- ・ 全日本各大会の車検に規則書にあるフォント (書体) のサンプルを配布し、確認を実施する (規則書と著しく異なる書体を使用している場合は、修正指導を行う)

3 2012 年度全日本ランキングの承認について

2012 年度全日本スノーモビル選手権シリーズ全クラスのランキングが承認された。

決定事項

2014 年度のスーパークラスの登録優先順位は、2013 年度と同様の条件にて選出することが決定した。

【予告】2014 年度スーパークラス登録優先順位

- ①前年のスーパークラスランキング 15 位まで
- ②前年の A 級 S1 クラスランキング 3 位まで
- ③前年の A 級 S2 クラスランキング 3 位まで
- ④上記以外の者は、特別申請を行い、スノーモビル部会が特に認めた者
 - ※ただし、過去スーパークラスに登録したライダーに限る
 - ※ただし、B 級から A 級に昇格した初年度はスーパークラスへの登録はできない
 - ※ただし、2013 年スーパークラス登録者で 2013 年全日本選手権シリーズに一度も出場しなかった選手はスーパークラスに登録することはできない。

意見 (選手会)

- ・ スーパークラスの台数ばかりが多くなってしまい、A 級が少なくなることが懸念される。
- ・ A 級 S1、S2 から上位 3 名ずつだと、技術面が伴ってない選手も含まれないか？

継続審議

今後、スーパークラスのレベル維持をテーマとして、「スーパークラスでのポイント未獲得者は今後、A 級へ強制的に降格とする場合がある」ことを部会にて検討していくこととなった。

4 2013 年度主要競技会暫定日程調整について

2013 年度暫定日程

第 1 戦	2 月 3 日	長野大会		※会場未定
第 2 戦	2 月 10 日	真狩大会	真狩農地特設会場	
第 3 戦	2 月 17 日	士別大会	士別河川防災ステーション横特設会場	※会場変更可能性あり
第 4 戦	2 月 24 日	青森大会		※会場未定
第 5 戦	3 月 3 日	美瑛大会	ウイズユー四季彩の丘特設コース	

- ・ 青森大会（2 月 24 日）は、今年発生した駐車場の問題の調整が難しく、会場変更も検討しなければならないが、現時点で決定できない。（8 月末を目途に結論を出す）
- ・ 青森県内で全日本開催に前向きな会場に関する情報（弘前市内から 40 分ほど）が出席者より提供され、東北部会にて検討することとなった。
- ・ 長野大会（2 月 3 日）は、会場を斑尾高原スキー場に変更の可能性があり調整中。（8 月末を目途に結論を出す）。
- ・ 士別大会（2 月 17 日）は現在の会場（士別河川防災ステーション横）での開催が困難となり、別会場候補地にて検討中。（8 月末を目途に結論を出す）

5 2013 年度規則変更（案）について

1) 体格を理由とするジュニアから B 級への特別審査適用について（北海道提案）

決定事項

スノーモビルジュニアから B 級への体格を理由（160cm 以上）とした特別昇格は認めない。

理由：MFJ ライセンス区分として、16 歳以上を B 級ライセンス取得可能年齢として設定している以上は、体格や技量に恵まれた選手であってもスノーモビル部会として特例で昇格を認めるべきではない。

2) 胸ゼッケン（ビブ）装着の全国統一について（北海道提案）

現状、車両に装着されたゼッケンが見つらい為、すでに北海道では導入しているライダーの胸ゼッケンの装着を全戦統一化してほしいとの要望が提案された。

決定事項

全戦におけるゼッケンビブ装着は義務付けとしない。しかし、特別規則にてゼッケン装着が公示された大会に参加する選手は、装着しなければならないこととする。また、車体ゼッケンは規則書の記載通りのフォント（書体）を使用するよう啓蒙する。

3) エントラントからの意見書について

第 5 戦青森大会の運営面と救護体制に関する意見書が報告された。

- ①ジュニアクラススタート時の対応に関して
- ②救護室の設備について
- ③スタッフの対応について
- ④コースについて

※以下⑤～⑦は選手会からの要望事項

- ⑤レース時間について（選手会）
- ⑥ブルーフラッグの提示について（選手会）
- ⑦日章旗の提示について（選手会）

意見

- ・ スポーツ走行時に発生した事故の要因のひとつとして、1 クラス 20 分の練習時間が長すぎたのではないかと？特に B 級等初心者クラスは体力も無いので 10 分×2 回が適切ではないか。
- ・ 日章旗の振り方は、規則通りにシリーズ統一化とし、見える位置で雪面から振り上げる。

決定事項

東北スノーモビル部会ならびに第 4 戦青森大会主催者に対し、MFJ スノーモビル部会より運営強化に向けた改善策を行う為、「運営改善要望書」を提出し、回答を得ることとする。

改善要望項目

- ◆コースレイアウト
- ◆スタート進行（ボード表示も含め）
- ◆救護室の場所および設備

4) 選手会からの要望について

①タイムスケジュールの全戦統一化について

本州と北海道では、天候やフェリー等の交通機関を考慮すると同じスケジュール開催することは不可能。

②決勝台数の明確化

1 度に出走する人数（現状：20 台）において、上位ライダーからは台数を減らしてほしい、下位のライダーからは 1、2 台の超過は走行を認めてほしいとの正反対の要望があり、これまでも大会ごとにブリーフィングにてライダーと協議の上で決められていた。

審議の結果、スノーモビル部会にて以下を決定した。

決定事項

2013 年より A 級スーパークラスの決勝グリッド数は最大 16 台とする。（登録は 30 名のまま）敗者復活レースは実施しない。

2013 年スーパークラス実施概要

決勝レース：15 分+1 周×2 ヒート …… 決勝グリッド数：最大 16 台
予選レース：周回数 3 周 …… 予選グリッド数：最大 20 台

受付後参加台数	予選組	予選上位進出者
5 ～ 16 台	予選なし	
17 ～ 20 台	予選 1 組	1～16 位
21 ～ 30 台	予選 2 組	各組 1～8 位

※予選が複数組となった場合の決勝進出優先順位は、周回数が多く、タイムの早いトップの組を優先に各組交互に補充される。（完走者優先）

※予選レースの実施については主催者及び大会審査委員会の判断により例外も認められる。

なお、スーパークラス以外のクラス（A 級 S1/S2、B 級 S1/S2/S3）の予選ならびに決勝最大グリッド数は、20 台のまま変更なし。

決定事項

当該レースに出場している以外のライダーとピットクルーのピット・サインエリアへの立ち入りを禁止とし、各大会主催者にて啓蒙を行うこととなった。各大会のライダーズブリーフィングにて必ず警告を行うこと。

④選手会長の権限について

選手会長が、各大会会場にて、大会運営面での啓蒙活動をしやすくする為、選手会長の立場が明示できるもの（腕章、ピブス等）を身に着けることが提案され、事務局にて検討する

こととした。

また、各大会主催者は、選手会長の指示を運営役員が受け入れやすくする為、事前に説明を行うことが要望された。

⑤開催日程について

本州と北海道の開催数のバランスを考慮してほしい。2013 年のスケジュールが 5 戦(北海道 3 戦、本州 2 戦)と調整されたことから、有効ポイント制では出場しない大会が発生しかねない為。

決定事項

A 級、B 級のポイント制度を下記の通り改訂する。

■開催数が 6 戦以上の場合、6 戦中 5 戦の有効ポイント制とする(現状通り)

■開催数が 5 戦以下の場合、全戦合計ポイント制とする(新規則)

※スーパークラスは、2 ヒート制全戦合計ポイント制とする(現状通り)

⑥スーパークラスにおけるルーキーゼッケンの適用

過去に登録していたライダーもいる為、ルーキーとは限らないことや人数も少なくお互いが把握できるので、ルーキーゼッケンは導入しないことが確認された。

⑦トランスポンダーの導入

タイムが正確でリザルト集計が早いという利点はあるものの、コスト面から導入は難しい。また雪でのトラブルの可能性も懸念される。

6 その他について

1) 2012 年度ライセンス発行数について

今年度のライセンスより有効期限が 4 月～翌年 3 月までに変更になったため、6 月末の時点では、2012 年度ライセンスの申請数は少ないが、2013 年シーズンに向けては開催間際の申請が見込まれることが報告された。

2) スーパークラスの技量格差是正について

新潟大会での走路を分ける対策等、スーパークラス内での技量格差に関する問題が指摘され、スーパークラスからの自動的な降格制度や A 級からの昇格条件をさらに厳しく設定する等の対策が必要であるとの問題が定義され、継続して検討することが確認された。

3) スノーモビルアカデミー開催について

減少するライセンス会員の歯止め策、スノーモビル基礎知識の向上、指導者の育成を目指し、MFJ の公認する「スノーモビルアカデミー」の開催について、新潟県スノーモビル部会高橋和雄氏 (RSS 高喜屋) より、趣旨説明が行われた。

<開催の目的>

スノーモビルを生涯スポーツとして楽しめる環境を作り、幅広い年齢層に普及させる。人口比率が高くレジャーとして楽しむ世代の多い地区にターゲットを絞り、ライダーだけでなく講師の育成を図る。

<開催内容>

- ・ 関東、東北、北海道の会場で開催を計画(都市部で開催意向)
- ・ 対象は 9 歳以上の男女で MFJ ライセンス取得要件を満たす者
- ・ 各会場にて 1 泊 2 日のスクールを 2 回(計 4 日間)開催
- ・ ライディング、基礎知識を習得する(講習会+レベルアップスクール)
- ・ 各会場とも最大参加人数は 20 名とし、10 名以下の場合には行わない

<開催に際しての問題点>

- ・ 講習用教材が不足しており、原稿案は作成するので、MFJ で教則本に製本してほしい
- ・ ライセンス取得条件にある運転免許証所持者の講習会免除は、免許証を持っていてもスノー

- モビルに関する知識や技量が無い人も取得できる為、見直しが必要。
- ・ 現状、ジュニアライセンス講習会では保護者同伴が義務付けられてないが、保護者のマナーが低下しているのでマナーアップが必要。また実技もない為、危険度が高い。
 - ・ スノーモビル車両も複雑化しており、ユーザーの知識不足による事故の発生も懸念され、講習会の内容に、技術知識の内容も入れた方がよい。

<審議依頼>

スノーモビルアカデミーの実施にあたり、MFJスノーモビル部会の承認と北海道・東北地区での講習開催の承諾、ならびに MFJ と部会の協力の下スムーズな運営を図りたい。

MFJ の見解

- ・ 底辺層の拡大とスノーモビルの普及活動を目的とした有益な提案である。
- ・ 他種目で行われている「MFJ アカデミー」とは主旨が異なるので、名称の使用について、検討の余地はあるが、提案内容自体は問題ない。

決定事項

スノーモビルアカデミーの開催提案について、スノーモビル部会にて承認された。呼称等、要項の詳細については、本部と主催者で調整する。

以上